



コミュニティ・スクール太宰府市立太宰府東中学校

東の風

令和8年2月2日(月)第10号 文責:校長 高良 悦子



保護者の皆様、tetoruにて依頼いたしました「後期学校評価」アンケートへのご協力、ありがとうございました。結果をもとに考察し、今後の学校経営にいかしてまいります。

天満宮「鶯(うそ)かえ神事」から

2月となり、今年度も残すところ2か月となりました。学校では、1年間のしめくくりの時期として、学習や行事などのまとめをすすめているところです。また、3年生は1月末に「私立専願入試」を終え、2月は「公立特色化選抜・推薦入試」や「私立一般入試」をひかえているところです。学問の神様(天神様)として有名な菅原道真が祭られている太宰府天満宮には、たくさんの受験生や保護者が参拝されたことでしょう。菅原道真は、学者として活躍する一方で、苦しい時間も経験しました。それでも学び続けたその姿勢は、時を経ても、私たちの心の支えとなっています。



また、太宰府天満宮では1月7日に「鶯(うそ)かえ神事」が行われました。これは、前の年に知らず知らずのうちについたすべてのうそを、天神様の誠の心に取り替えるという神事だそうです(太宰府天満宮HP参照)。少し言い換えると、「うそ」を「身の上に起きた良くないこと」とし、それを変える行事でもあります。そして、前の年の災害や不幸が、本年は運が良いことや良い出来事になるように願って行われる行事ということです。

誰しも、どんなに頑張っても思うようにいかなかったり、うまくいかずに悩んだりしたことはあると思います。そんな時は心を整え気持ちを切り替え、また前に進むきっかけにしていければと思います。本校でも、たくさんの努力が実を結ぶことを願っています。

「わたしたちの手でしあわせをひとつに」第69集(太宰府市啓発冊子)から

太宰府市から人権・同和問題啓発冊子「わたしたちの手でしあわせをひとつに」第69集が、本校にも届きました。この啓発冊子は、さまざまな人権問題に関する理解を深め、人権尊重について考えるきっかけとなることをめざして作成されています。特に、第2章「人権・同和問題について学ぼう」では、部落差別をはじめとするさまざまな差別への思い込みや偏見をなくす必要性が、わかりやすく記されています。



本校でも、太宰府東小、太宰府南小と共に「太宰府東中ブロック」として研修をしながら、人権・同和教育を進めているところです。「太宰府東中ブロック」では、子どもたちの実態を把握したうえで、「人間関係づくり」と「人権の学び」の双方向からの取り組みが相互に影響し合うことで人権意識が高まると考えています。

福岡県人権啓発情報センター館長の谷口 研二(たにぐち けんじ)さんは、「差別の土壌が改善されると人権の土壌になり、そこには差別の芽を吹かせない力がある。土壌を改善していくという、学級づくり、学級文化づくりが必要だということは自明のこと。」とされています。また、中学校ブロックでは、子どもたちが変わる機会を授業の中でどう用意するかを考え、実践を重ねているところです。また、人権・同和教育は、差別の実態から深く学ぶことも大切です。私たち教職員も「自分ごと」として、差別事象に学ぶ研修や体験的に学ぶ研修を重ねています。

子どもたちがあらゆる人権問題やそれに起因する生きづらさ等と向き合い、共に乗り越えていこうとする意欲や行動力を培うことができるよう、私たちと子どもたち、保護者・地域の皆様など、多様な関係性の中にたくさんのつながりをつくり、子どもたちと一緒に育てていきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。